

今号の
トピックス

高校生の君！音響性聴覚障害大丈夫

「電車に乗っていて隣の高校生のスマホ音がうるさい」これでは「音響性聴覚障害」になる。騒音問題は顕在化している割に啓発が遅れています。自分の身の回りの体験から本問題について、開発委員会第4分野・視聴覚の発達障害分野チーフの水野史也代さんに投稿して頂きました。（大谷）

—WHOの警告—

1979年、ポータブルカセットプレーヤー（ウォークマン）が発売され、好きな場所で気軽に音楽を楽しめるようになった。私もお給料を貯め購入し通勤中に音楽を聞いていた。

しかし、満員電車の中で電池の交換やカセットテープを入れ替えることは難しいし、荷物（カセットテープと電池）が増えるので壊れた後は機械を買い替えることはなかった。今はスマホで聞きたい音楽を聞き続けることができる時代なので「カセットテープの入れ替え」「荷物が増える」と言われても「何のことだろう？」と思う若い人もいると思う。

そのころから「ヘッドホンから漏れてくる音がうるさい」という新たな騒音問題が起こり、「耳が悪くなる」とも言われてきた。そして2015年世界保健機関（WHO）は、音楽などを大音量で長時間聴く習慣のため聴覚障害になる危険性の高い若者は世界で約11億人に上る、と指摘した。

私は登下校中の高校生を見かけると「耳」を見る。ほぼ100%の高校生がワイヤレスイヤホンを装着している。「耳を休ませることも大事だよ」と高校生に声をかけたくなる。

—オンライン授業と難聴—

時は過ぎコロナ禍でオンライン授業が始まると小学生がヘッドホンを装着し自宅で授業を受けるようになった。家電量販店には「子ども用ヘッドホン」が数多く並べられている。我が家の隣の小学生（当時）の姉弟も家のテーブルに並んで座り、ヘッドホンをしてオンライン授業を受けていた。家庭によってパパ・ママはヘッドホンでテレワーク、子どもはヘッドホンでオンライン授業という家庭もあったことだろう。

オンラインゲームも会話をしながら進めていくゲームは会話を家族に聞かれたくないため、ヘッドホンマイクを使用してゲームを楽しんでいる小学生も多い。

さらに驚いたことは幼児が新幹線・飛行機などでの移動時にイヤホンを装着して動画視聴している、と聞いたことだ。調べてみるとイヤホン・ヘッドホンの使用の年齢制限はなく「保護者の判断」となっているようだ。

—大人の聴覚と子どもの聴力は違う—

子どもの耳は大人と比べると繊細で、大きな音・強い音を聴き続けると、ダメージを受けやすいことがわかっている。

2019年WHOとITUが示した「安全な音量と聴取時間の上限についてのガイドライン」では、子どもでより厳しい基準となっている。

子どもがイヤホン・ヘッドホンを使用するときはまず、大人が音の大きさをチェックし、子どもが勝手に音量を上げないように注意しなければならない。また、大きくない音でも音を流しっぱなしにすることは耳にダメージを与える。情操教育のため、とクラシック音楽を流し続けることも避けた方がよい。テレビのつけっぱなしも耳のためには注意が必要だ。子どもは身の回りのたくさんの音の中から、聴きたい音だけを選んで聞くことが苦手で、大人には気にならないエアコンや足音などの生活音も、歌声や話し声、音楽などと一緒に聞いている。常に音が流れている環境にならないようにして音を全く流さないような、耳を休める時間をつくることも大切だ。

12月の乳幼児研修、視聴覚部門では子どもの聴覚について、今、わかっていることをほんの少しだが触れようと準備している。お時間がある方は是非、参加してほしい。（水野史代）